

農林水産省関東農政局長賞

「苦勞から生まれるご飯」

鎌倉市立玉繩中学校
1年 後藤 美奈

私は家で、祖父母の作ってくれたご飯を食べている。一杯のご飯を目の前にすると、祖父母の顔と岡山の青々とした田んぼの風景を思い出す。

この夏岡山へ帰省したとき、田んぼで毎日作業をしている祖父に米作りの苦勞を聞いてみた。すると、祖父は私に三つ教えてくれた。

一つ目は、祖父が一番悩まされているジャンボタニシ問題である。ジャンボタニシと呼ばれるスクミリンゴガイは、稲の茎や根を食べて悪影響を与える。その他にも、約三〇〇個もの卵を産む。卵は稲に悪影響を与えないが、内部にPCPV2という神経毒を持っていて、食べようとすると動物から身を守っている。そのため、ジャンボタニシはとても繁殖力が強く、卵から駆除しなければならぬのだ。

ジャンボタニシと卵では、駆除の仕方が異なる。卵がかえるためには酸素が必要なため、稲や護岸に着いている卵を水の中に落とす。しかし、成長したジャンボタニシは水中ではエラ呼吸、陸上では肺呼吸をするため、捕まえてゴミとして焼却しなければならぬのだ。

二つ目は、刈っても刈っても生えてくる雑草問題だ。夏の暑さが厳しくなる頃に生えてくるため、成長が早く、何度も刈らなければならない。さらに、猛暑の中で草刈りをするのは熱中症になる危険もある。そのため、作業する時間帯を朝の暑くなる前か、夕方の暑さが和らいだ時間にするといい対策をしているそうだ。

三つ目は、七月上旬に大きな被害を与えた西日本豪雨などの天候の問題だ。祖父母の住む岡山県の中でも最も大きな被害を受けたのは、近くの倉敷市真備町だ。ニュースで見ていると、稲の茎が折れ曲がっていたり、泥をかぶっていたり、青々としていた色がにごった茶色になってしまったりと米が大きな被害を受けた田んぼが多かった。また、桃やマスカットへの被害も大きかった。マスカットはビニールハウスで育てているが、土砂が流れてきてハウスを破壊した。それにより、マスカットへの被害が多くみられた。桃は、土砂により根元から倒れたり、押し流された。収穫時期が七月から八月の上旬までのため、大きな被害額になった。

祖父母の家は岡山市だったため、真備町のような大きな被害はなかった。しかし、豪雨の日、田んぼは一面水になり隣との境のあぜが見えなくなったそうだ。でも、次の日には水も引いて元通りになり、稲もすくすくと育っている。

毎年元気な稲を収穫できるように気にするのが、大きな被害を与える台風だ。祖父母は米の収穫時期の十月中旬頃に近づくにつれて、台風がこないか心配していると聞いた。しかし、被害なんてめったに起こるものではないと考えた私は、祖父に聞いてみた。すると、約三十年前の大きな被害を教えてもらった。強風と雨が降ったせいで、稲が倒れて水に浸かり米が発芽してしまったそうだ。発芽してしまった米は食べられないので、今までの苦勞が水の泡となった。自然災害が少ないと言われている岡山でも、このような苦勞があることを初めて知った。

祖父母は、いくら大変そうに見えても、

「美奈ちゃん達のためなら大丈夫だよ！」

と言ってくれる。それが私にとっては、何よりも嬉しい。祖父母にはいつまでもおいしいお米を作ってもらいたいと思う。今私がおいしいご飯を食べられるのは、全て祖父母のおかげだ。この感謝の気持ちを忘れず、これからもたくさんさんの「ありがとう」を届けたい。

おじいちゃん、おばあちゃん、ありがとう。